



日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和7年1月号

学校 Web ページ

<https://www.hino-ky.ed.jp/e-hino4/>



周年記念
キャラクター



ふじっち

四小だより

学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」

一年の計は元旦にあり

校長 三浦 寛朗

新年明けましておめでとうございます。気候的に穏やかな新年の幕開けとなりましたが、皆様のお正月はいかがでしたでしょうか。本年も子供たち一人一人が穏やかな学校生活を送り、何事にも夢中になれるよう、教職員一同、力を合わせて教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新年には「一年の計は元旦にあり」という言葉をよく聞きます。充実した一年を送るためには一年の初めにきちんと目標や計画を立てて努力することが大事だという意味ですが、この言葉の由来を調べてみると、次のようなことが分かりました。

中国明朝の学者、憑慶京（ひょうおうきょう）によって著された書物に「月令広義（げつれいこうぎ・がつりょうこうぎ）」というものがあります。このなかに次のような文が書かれています。

一日之計在晨	一日（いちじつ）の計は晨（あした）にあり（一日の計画は晨（朝）に立てることが重要である。）
一年之計在春	一年の計は春にあり（一年の計画は春（元旦）に立てなさい。）
一生之計在勤	一生の計は勤（つとめ）にあり（充実した一生には勤勉が肝要である。）
一家之計在身	一家の計は身にあり（一家の将来は健康に過ごすことで決まる。）

一日の初めである朝や、一年の初めである正月に計画を立てることで、日々が充実したものになり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まるという意味です。「一日（いちじつ）の計」「一年の計」「一生の計」「一家の計」を合わせて「四計」といい、よき人生に欠かせない大切な計画とされています。

さらにもう一つ、戦国時代の武将として有名な毛利元就の言葉が由来になっているという説もありました。元就は、長男の隆元にあてた手紙の中で、次のような教訓を伝えています。

一年の計は春にあり
一月の計は朔（ついたち）にあり ※朔とは月の最初の日
一日の計は鶏鳴（けいめい）にあり ※鶏鳴とは一番鶏が鳴く早朝

毛利元就の言葉は、一年、一月、一日それぞれの最初るときこそが計画を立てるべきときであるということを使ったもので、何事も最初が肝心であるという戒めを意味しています。

どちらも、新しい年の計画は年始に立てるべきである、物事を始める時には、きちんと計画を立てる必要があると説いています。そして、この計画の中には、見通しや目的、目標をもつことも含まれています。2学期の終業式では、「一年の計は元旦にあり」を紹介して、新年の目標を立てようという話をしました。ご家庭でも、ぜひ、お子さんが立てた目標についてゆっくりと話を聴く時間を持ち、目標を十分に達成できるようしっかり励ましていただければと思います。学校でも、子供たちの目標達成に向けて、よりよい伴走を今後も続けていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。